

## 令和5年度第3回函館方面函館西警察署協議会議事概要

### 1 開催日時

令和5年12月11日（月） 午後1時30分から午後2時20分までの間

### 2 開催場所

函館西警察署大会議室

### 3 出席者

#### (1) 協議会委員 7名（定員7名）

会	長	妹	尾	正	白
副	会	木	村	太	郎
委	員	佐	藤	由	規
委	員	四	戸	悦	未
委	員	永	井	正	人
委	員	佐々	木	佳	織
委	員	原	田	菜	摘

#### (2) 警察署員 11名

署	長	高	橋	勇	吉
副	署	船	越	秀	和
刑事・生活安全官		小	高	俊	輔
地域・交通官		山	田	晋	矢
警務課長		川	村	雅	望
生活安全課長		石	崎	隆	之
地域課長		櫻	井	隆	敬
刑事第一課長		澤	崎	友	一
刑事第二課長		守	村	直	巳
交通課長		巳	扇	克	章
警備課長		高	橋	宜	孝

### 4 函館西警察署協議会会長挨拶

今回の協議会は前回の案内の通り若年層における薬物犯罪の実情についてです。

前回の協議会で薬物捜索を実際に体験しました。

昨今は、大学生の部活内における複数人の大麻所持事案、大麻グミを摂取し体調不良に陥り緊急搬送されたり、東京都内では市販の薬を通常より安価で販売し逮捕される事案などの様々な薬物関連の報道を目にします。

また、若年層の他にも女性も違法薬物に手を出す場合もあると聞きますので、違法薬物の危険性や現状実態を把握する必要があります。

本日は違法薬物に関する説明がありますので、その説明や前回の協議会の体験を踏まえ忌憚のない意見を出していただきたいと思います。

5 函館西警察署長挨拶

函館市内も雪は少ないですが、寒い日が続く冬シーズンが到来しました。

北海道内は依然として交通死亡事故が発生しています。

冬期間は特に、走行速度を夏場よりもダウンする、車間距離を空ける、急のつく運転はしないことで交通事故を防止していただければと思います。

本日は皆様が日頃感じている警察への意見や要望など忌憚のない意見をいただければと考えております。

6 委員からの要望に対する改善状況(前協議会委員からの要望)

委員 国道278号線(通称漁火通)の大森橋付近を湯の川方向に走行し、対面信号が黄色に変わるとき、タイミングが悪く交差点に進入してしまうと、途中で赤信号に変わってしまい交差点を抜けることができない。

停止線を引くか、信号機のサイクルを変えてほしい。

警察 要望のあった場所については函館中央警察署管内となりますが、当署交通課長から函館中央警察署に働きかけを実施した結果、本年9月の亀田川大森橋の掛け替え工事に伴い、停止線を信号機直下に移動しました。

その結果を踏まえ、要望した前協議会委員から「スムーズに通過出来るようになった。」と御連絡をいただきました。

7 事前質疑回答

委員 前回協議会で、「学生による詐欺の模擬体験」について、大変興味深いものと感じた。

可能であれば、継続的にその取り組みについて取り上げてほしい。

特に、「被害者側の心理」についてどのようなものであったかを掘り下げてくれると、年配の方と接する上で、参考になる。

警察 北海道教育大学函館校の学生が行う特殊詐欺被害防止訓練の詳細について現在、企画・制作中になります。

今後に関しては、12月13日及び21日に当署管内の町会館とデイサービスで講話を実施する予定となっています。

また、特殊詐欺被害者の心理等につきましては、北海道警察のホームページに詐欺電話がかかってきて被害に遭った方、詐欺電話がかかってきたものの被害に遭わなかった方1,254人を対象にしたアンケートが公開されています。

実際被害に遭われた方の傾向として、現金を交付する前に周囲に相談していない方が多く、全体の8割を占めています。

逆に、被害に遭わなかった方の約半数は、普段から不審な電話がきた際は家族や警察に相談しようと考えているという結果が出ています。

また、被害に遭った方の特徴として、自身で詐欺と気付けなかった方が全体の6割、その他に、「慌てていた」、「自分で解決しようと思った」、「家族に知られたくなかった」を合計すると全体の3割を占めています。

委員 一時停止の停止線が消えていて停止場所が不明瞭な場所が散見される。  
パトロールの際の確認や修繕等の管理についてお願いしたい。

警察 修繕に関しては、警察署から函館方面本部交通課の規制係に工事の必要箇所として上申しています。

不明瞭箇所があれば、警察署若しくは最寄の交番に通報していただければ函館方面本部へ報告します。

委員 警察では110番の通報訓練はないのか。

交番ではどのような訓練を行っているのか。

警察 通報訓練について、110番受理を主管する函館方面本部地域課に確認した結果、法人や個人による110通報に特化した訓練の前例がないとのことでしたが、要望があれば対応可能とのことでした。

交番での訓練ですが、犯人の制圧逮捕や襲撃者から身を守る訓練を日常的に実施しています。

## 8 懲戒処分状況

## 9 業務説明

## 10 諮問事項「若年層における薬物現状」

### (1) 諮問事項の警察説明

昨今は、大麻所持事案が増加傾向であり、令和4年中、北海道内では266人を検挙しています。

年代別では20歳代が118人と最も多く、全体の44パーセントを占め、これに20歳未満の検挙人員を加えると全体の半数を超えます。

また、大麻草に関して「たばこより害が少ない」「依存性がない」「1回だけなら平気」と誤った認識を持つ者も多く、覚醒剤と比較し安価で購入できる面などから若年層に蔓延しているのが現状です。

### (2) 委員の意見

委員 大麻事案について若者に広がっていることはテレビや様々な資料で何となくは知っている。

実際に函館市内で違法薬物を売買するケースがあるのか。

また、大麻草を栽培する環境はどのようなものか。

警察 函館市内でも違法薬物の検挙は増加傾向です。

大麻草の栽培に関して、過去の事例から郊外や人目の付かない山奥で栽培するケースなどがあります。

委員 SNSを見ていると、違法薬物を連想させる隠語を使ったやりとりを見ることがあるが、インターネット上でやりとりから捜査に発展することはあるのか。

警察 インターネット上で違法薬物の取引があるのは事実です。

警察庁が委託しているインターネットホットラインセンターという民間会社があります。

この会社はインターネット上における有害情報を把握した際、警察への通報や管理者へ削除依頼を行っています。

その通報をもとに都道府県警察では事件化するなどの捜査を行っていますし、北海道警察でも独自にインターネット上のパトロールを実施しています。

委員 自生大麻の処分はどのようにしているか。

警察 管轄する保健所が伐採するなどの処分をしています。

## 11 次回の開催予定

令和6年2月を予定